

令和4(2022)年度生分解性マルチフィルム利用展示ほの概要

令和4(2022)年10月
芳賀農業振興事務所

1 設置期間

令和4(2022)年6月1日～令和4(2022)年10月31日

2 展示ほ内容

- (1) 供試作物 さつまいも
- (2) 供試資材 キエ丸黒 95cm×200m 無孔 8本
- (3) 供試面積 20a
- (4) 概要
畝上げ、マルチ被覆 6月1～3日
定植 6月5～7日
収穫 10月下旬

3 結果の概要

10月20日(木)に収穫調査(5株)を実施した。

収穫量は、紅はるか7.85kg(3.14t/10a)、シルクスweet 8.24kg(3.30t/10a)となり、ともに一般的な栽培方法と遜色のない肥大、収穫量となった。



「紅はるか」



「シルクスweet」

生分解マルチの収穫時の状態は、破壊が進み、原形を残しているところでも少しの負荷で破れる状態であった。



収穫時の生分解マルチ

経営費試算（10a 当たり）

	生分解マルチ	黒マルチ
資材代 (95cm×200m×4本)	25,300 円 (5,750 円/本)	9,218 円 (2,095 円/本)
処分費用 (71 円/kg)	0 円	1,079 円 (15.2kg)
労賃換算〔マルチ回収等〕 (913 円/1hr)	0 円	13,695 円 (15 時間)
合 計	25,300 円	23,992 円

※マルチ重量は、厚さ mm×幅 m×長さ m×0.97 で計算。

労賃は栃木県の最低賃金（令和 4 年 10 月 1 日時点）で計算。

マルチ回収、つる刈りの所用時間は、生産者聞き取りによる。

4 考 察

生分解マルチは、栽培上問題なく利用できた。

資材代は、黒マルチと比較して約 2.5 倍と高額であるが、廃プラスチック処分費用が必要ないことやマルチ回収等の労力が省力化できることから、労働費を計算するとほぼ同等の経費となる。

そのため、規模拡大を図るにあたって労働力確保との兼ね合いで、省力化技術の一つとして検討する価値はあると思われる。